

経営比較分析表（令和元年度決算）

岡山県 津山市

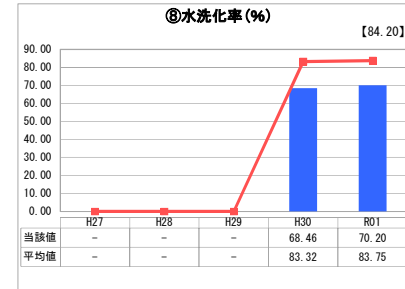
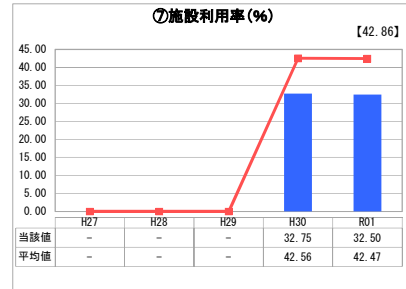
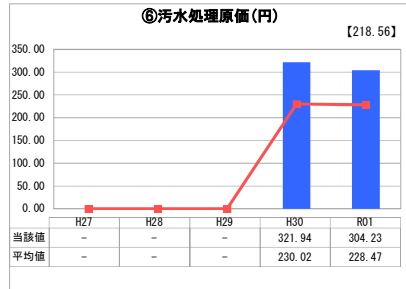
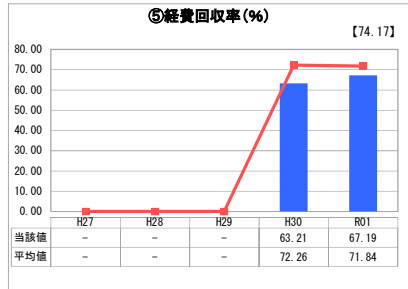
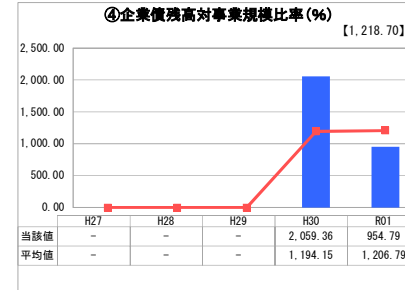
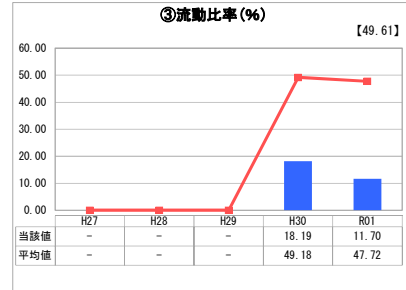
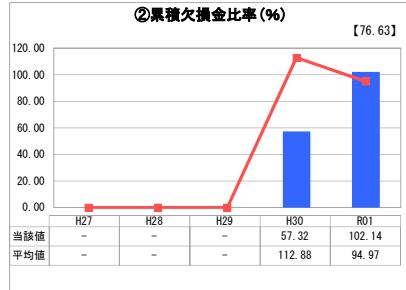
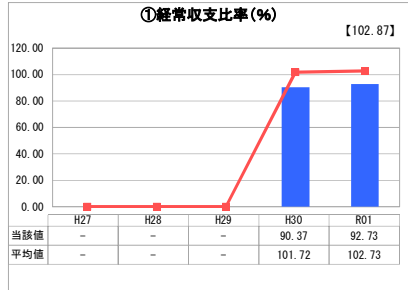
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	58.71	2.30	92.38	3,465

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
100,669	506.33	198.82
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,299	1.07	2,148.60

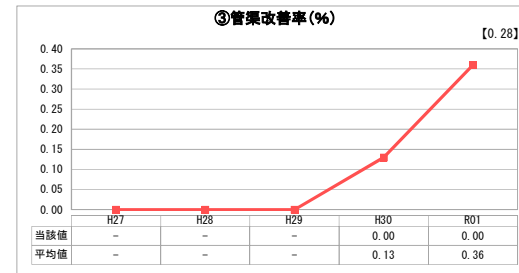
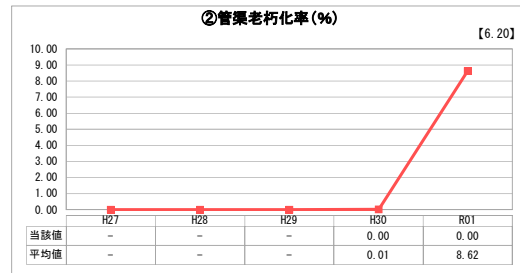
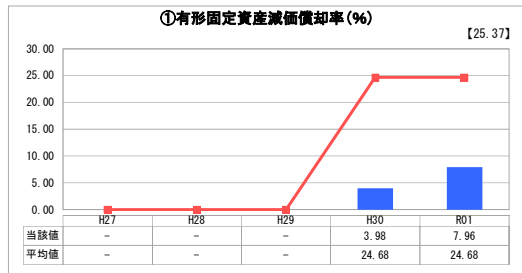
グラフ凡例

- 当該団体の値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市の特定環境保全公共下水道は、平成14年度に供用を開始し、これから処理場施設等の更新時期を迎えます。

下水道利用者数は、過去5年で大きな変動は見られませんが、有収水量の減少が顕著となっており、⑦施設利用率が、年々悪化し、非効率な運転状況が続いています。同地域に5カ所の処理施設を有する農業集落排水事業もあり、これらの処理施設も更新時期を迎えていることから、処理施設の統合も検討し、既存施設の有効利用と将来の有収水量に合わせた合理的な施設更新に取り組みます。

企業債残高は令和元年度末現在15.3億円であり、年々減少していますが、今後は施設更新における新規借入が必要となる見通しです。

元利償還金の一部に、一般会計からの繰入金を用いているため、⑤経費回収率が高くなり、指標上、使用料水準はおむね適正といえますが、⑧水洗化率は、類似団体平均を下回っています。水洗化促進に取り組み、使用料収入を確保することが必要です。また、多額の償還額は、①経常収支比率、③流動比率、⑤経費回収率を低下させ、⑥汚水処理原価を押し上げる要因となっています。3条予算では赤字補填をしていないため、①経常収支比率が低く、②累積欠損金比率が高くなっています。

なお、平成30年度から公営企業会計に移行したことに伴い、平成29年度以前(法非適)の数値はこの分析表に記載されていません。

2. 老朽化の状況について

法定耐用年数に達した管渠がないため、老朽化対策は行っていませんが、機械設備・電気設備には耐用年数を経過している施設もあり、平成30年12月に作成した「下水道事業ストックマネジメント基本計画」に基づき、令和元年度から効率的な施設の更新に向けた調査・長寿命化を含めた対策を行っています。

全体総括

平成30年度に公営企業会計に移行したことに伴い経営戦略を抜本的に見直し、令和3年度に公表します。新たな経営戦略では、料金水準の見直しに先立ち、水洗化率向上へ向けた取組、維持管理費を削減する取組による経営改善について、目標を設定し、事業を継続できる財政基盤の強化を図ります。

また、特定環境保全下水道事業は、公共下水道事業に比べ、事業規模が小さいため、人口減少の影響による収入減収が経営に大きく影響します。「下水道事業ストックマネジメント基本計画」や農業集落排水施設の統合など、本市の事業全体構想を含めた効率的な施設更新に取り組みます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。